

医学生・初期臨床研修医における臓器提供教育に関する研究-

研究分担者 黒田 泰弘 香川大学医学部 客員教授
研究協力者 中村 健太郎 鹿児島県立大島病院救命救急センター長

研究要旨：

本研究は、医学生・初期臨床研修医に対する臓器提供教育の現状を明らかにし、終末期医療との関連性も踏まえた教育プログラムの構築を目的とする。臓器提供は終末期医療と不可分であり、倫理的判断や意思決定支援に関する素養が不可欠である。全国調査と意識調査を通じて教育の実態と課題を把握し、終末期ケアと臓器提供を統合的に扱うカリキュラム案を作成、標準化と普及を目指す。

1. 研究背景と目的

日本における臓器提供は法整備の進展とともに一定の増加傾向を示しているものの、欧米諸国と比較すると提供件数は依然として低水準である。その主因の一つに、一般市民および医療従事者の臓器提供に対する理解不足やコミュニケーションの困難性が挙げられる。

とくに、若手医療者である医学生や初期臨床研修医の段階で、終末期医療、その中の選択肢としての臓器提供に関する正しい知識・倫理観・患者家族対応のスキルを習得させることは、臨床現場での臓器提供の機会損失を防ぎ、将来的な制度の安定運用に寄与する重要な施策である。

本研究では、対象者に対する臓器提供教育プログラムの開発とその効果検証を通じて、医学教育の中での臓器提供教育の在り方を提案する。

2. 研究目的

・ 医学生および初期臨床研修医を対象とした臓器提供教育プログラムを開発する。

・ 開発プログラムを実施し、知識・態度・行動意図の変化を前後比較により評価する。

・ 得られた成果をもとに、全国の医学教育機関で活用可能な教育モデルの提案を行う。

3. 研究方法

(1) 研究デザイン

単群前後比較研究 (Before-After study)

(2) 研究対象

- ・ 医学生
- ・ 初期臨床研修医 (1・2年目)

- ・ 対象人数：計 200 名程度 (医学生 150 名、研修医 50 名)

(3) 教育介入内容

e-learning：臓器提供の基礎知識、関連法制度（移植法等）に関する教材（動画+スライド）を配信

ロールプレイ：家族説明場面を想定した模擬面談演習（役割交替）

体験談の共有：臓器提供家族・提供を担当した医師の講話

確認テスト・事後アンケート

(4) 評価方法

- ・ **知識評価**：臓器提供に関する 10 問選択式テスト（介入前後で実施）
- ・ **態度・意識評価**：臓器提供に対する態度・信念を問う質問票（5 段階評価）
- ・ **行動意図評価**：仮想症例提示に対する対応選択
- ・ **定性的分析**：自由記述・質的記述分析

(5) データ解析

4. 研究期間

令和 7 年（2025 年）4 月 ～ 令和 8 年（2026 年）3 月

5. 倫理的配慮

- ・ 各所属機関の倫理審査委員会の承認を得る。

- 研究参加は自由意志による文書同意を取得。
- 回答は匿名化して処理し、個人情報保護を遵守する。
- 結果の公表に際しても個人が特定されないよう配慮する。

6. 期待される成果

- 医学生・研修医に対する臓器提供教育の有効性が示されれば、全国的な教育プログラム策定の基礎資料となる。
- 臨床現場での臓器提供対応の質向上に貢献し、結果として国内における移植医療の促進が期待される。
- eラーニング教材やロールプレイシナリオ等は他施設での応用が可能であり、再現性・汎用性の高い成果を生む。